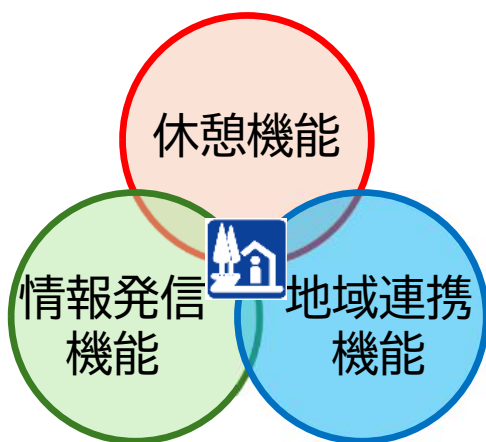


# 各施策のフォローアップと今後の方針

---

国土交通省 道路局  
企画課 評価室  
令和8年3月

第1ステージ  
(1993年～)



第2ステージ  
(2013年～)



第3ステージ  
(2020年～)



通過する道路利用者のサービス提供の場

「道の駅」の担う  
役割が拡大

道の駅自体が目的地

ネットワーク化で活力ある  
地域デザインにも貢献

地方創生・観光を  
加速する拠点

## 1. 「道の駅」を世界ブランドへ

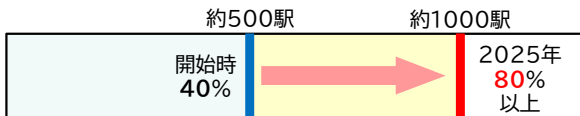
- 海外へのプロモーションやプロジェクト展開を国が推進し、「道の駅」は世界ブランドに。多くの外国人が新たなインバウンド観光拠点となった「道の駅」を目指し日本へ。

### ■多言語対応(外国人観光案内所の認定)



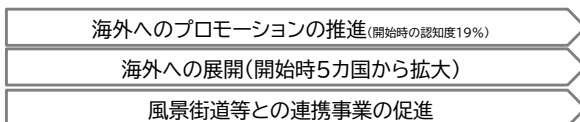
<対象駅>観光案内所のある道の駅約850駅

### ■キャッシュレスの導入



<対象駅>全国の道の駅1160駅

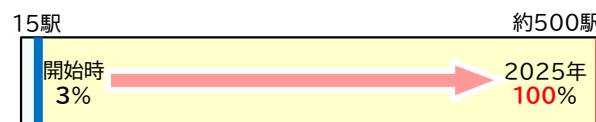
### ■海外や観光関係団体との連携



## 2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に

- 広域的な防災機能を担うため、国等の支援を受けてハード・ソフト対策を強化した「防災道の駅」を新たに導入。地域住民や道路利用者、外国人観光客も含め、他の防災施設と連携しながら安全・安心な場を提供。

### ■地域防災(BCPの策定)



<対象駅>地域防災計画に位置づけられた道の駅約500駅

### ■広域防災(防災道の駅)

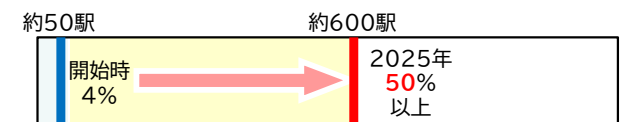
- ・広域的な防災拠点となる道の駅の選定
- ・ハード・ソフト両面からの重点強化 等

2020年～  
新たな  
「防災道の駅」  
認定制度の導入

## 3. あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに

- 「道の駅」を舞台に、地域の課題解決や民間とタイアップした「地域活性化プロジェクト」が、ボランティアを含めた様々な団体との協働や、全国連絡会等が橋渡しを行いながら、全国各地で盛んに実施。

### ■子育て応援(ベビーコーナーの設置)



<対象駅>全国の道の駅1160駅

### ■地域活性化プロジェクト(全国連絡会)

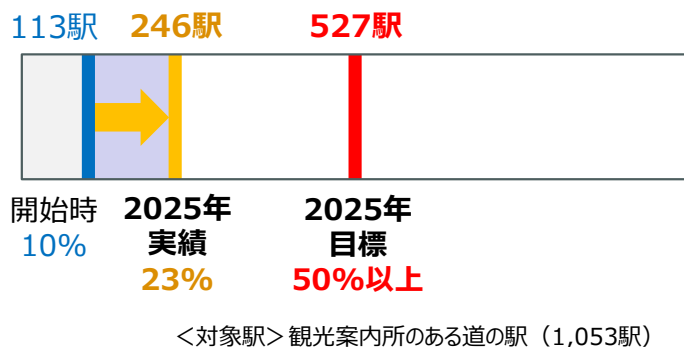


### ■大学等との連携企画の実施

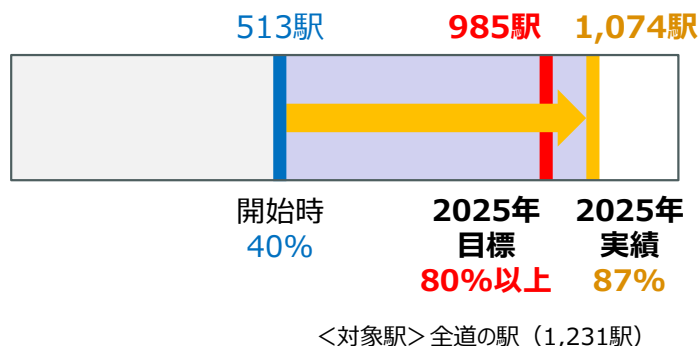


- 観光案内所のある道の駅のうち、外国人観光案内所に認定済（JNTO）は23%となった
- キャッシュレスの導入率は87%となった
- 海外・観光関係団体との連携に関する取組も全て数値が増加  
⇒ 引き続き、多言語案内環境や海外・観光関係団体との連携状況を定期的に確認しつつ、施設整備の促進等に向けた支援を実施予定

## ■ 多言語対応（外国人観光案内所の認定）

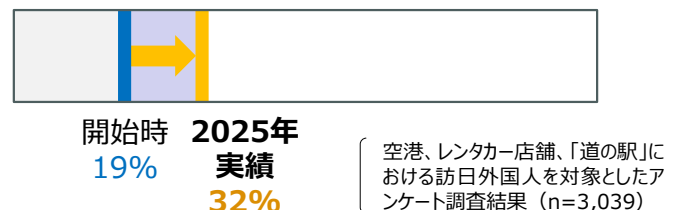


## ■ キャッシュレスの導入



## ■ 海外や観光関係団体との連携

### ・海外へのプロモーションの推進（「道の駅」の認知度）



### ・海外への展開



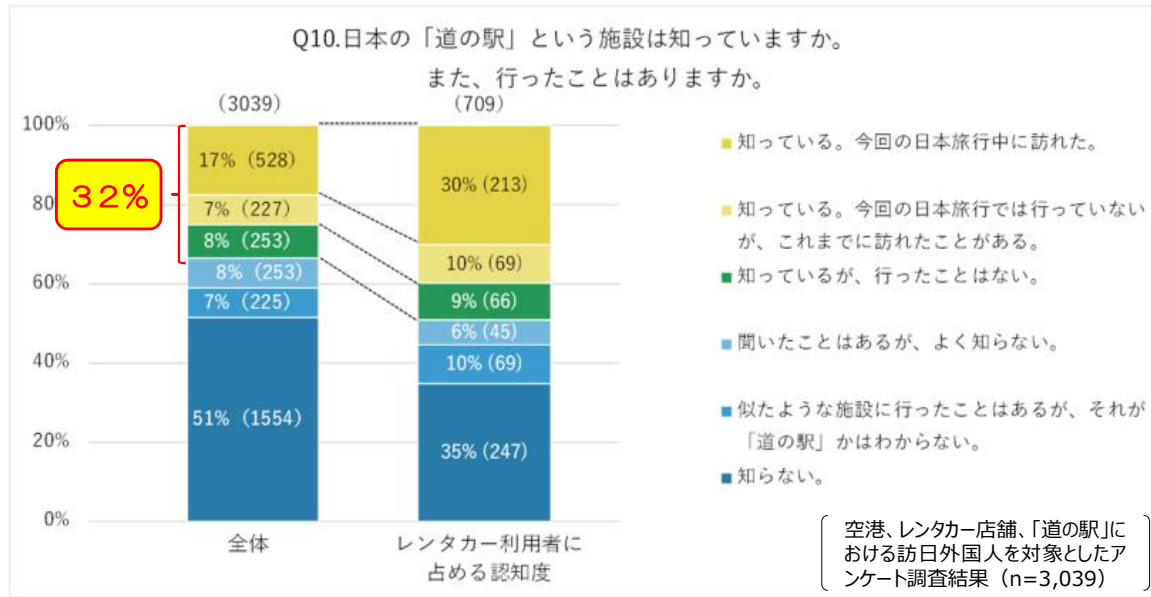
### ・風景街道等との連携事業の促進



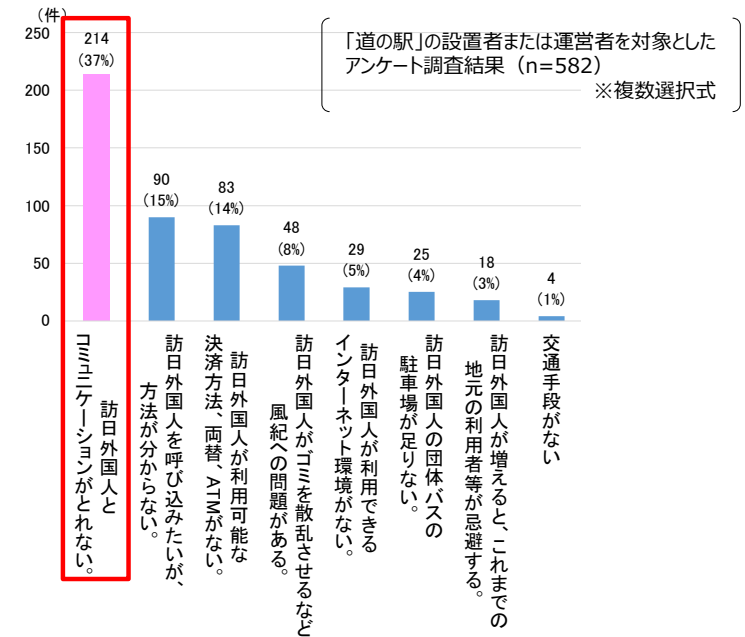
ピクトグラムによる主要設備の案内の例



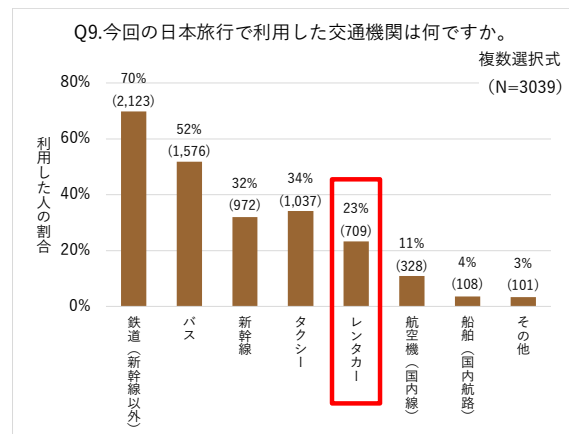
道の駅を含め地域の観光施設等を案内する多言語看板の例



「道の駅」の認知度・利用割合

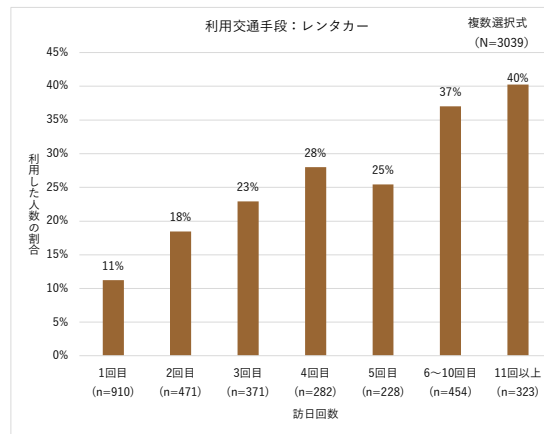


訪日外国人対応で困っていること

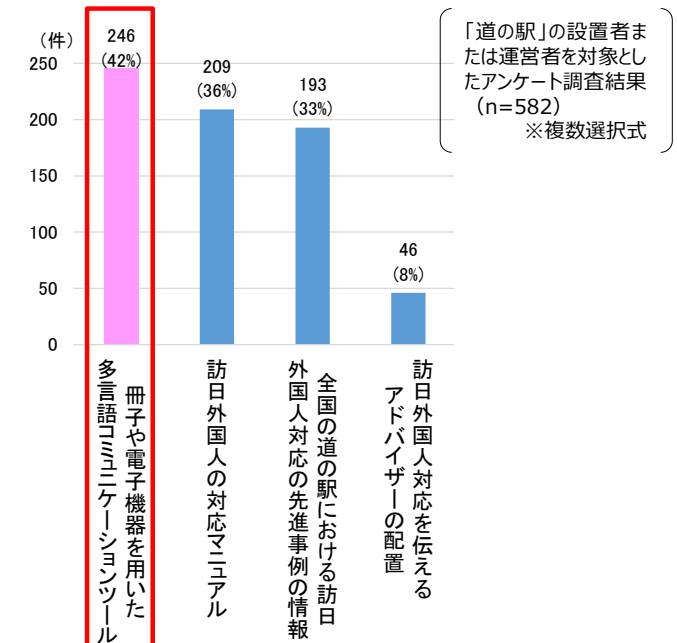


利用した交通機関

訪日回数が増えれば、レンタカー利用率は増加する傾向



訪問回数とレンタカー利用率の関係



対応時に欲しいツール・情報





防災用コンテナ型トイレ(R8.4.1～(予定))  
設置者:熊本河川国道事務所  
(道の駅「たのうら」(熊本県芦北町))



可搬型水循環コンテナ(R8.3.6～) ※平時はコインランドリーとして運用  
出典:山梨県富士川町HP  
設置者:INNFR株式会社  
(道の駅「富士川」(山梨県富士川町))



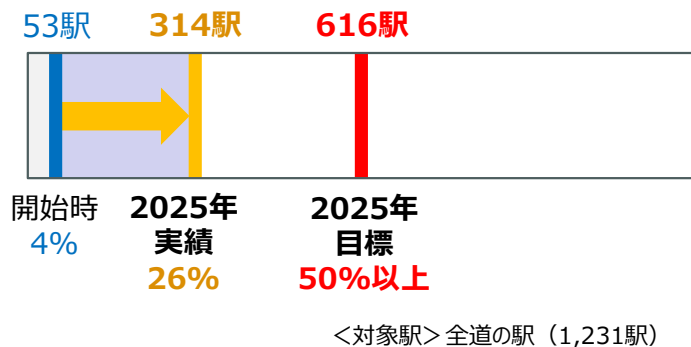
防災用コンテナ型トイレ(R8.3.19～)  
設置者:福岡県  
(道の駅「みやま」(福岡県みやま市))



可動式キッチンコンテナ実証実験(R7.11.1～11.5)  
※平時は調理スペースとして運用  
実施者:四国地方整備局

- ベビーコーナー(24時間利用可能)の設置率は26%となった(24時間利用に限定しない場合は51%)
  - ⇒ 引き続き、ベビーコーナーの設置状況を定期的に確認しつつ、ベビーコーナーや使いやすいトイレ(洋式化、建物改修にあわせた増設、子供用トイレ等)の設置の促進に向けた支援を実施予定
- 道の駅と連携している大学等は67校に増加
  - ⇒ 更なる連携促進に向けて、事例集のとりまとめ・周知による支援を実施予定

## ■子育て応援(ベビーコーナーの設置(24時間利用可能))



※24時間利用に限定しなければ、51%の駅(626駅)でベビーコーナーを設置済み



子供用トイレの設置



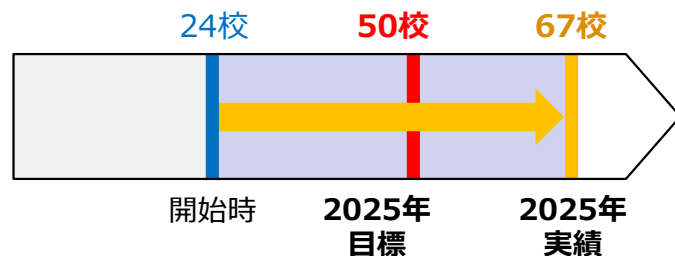
ベビーチェア、多目的シートの設置



満空利用表示

出典: 女性用トイレにおける行列問題の改善に向けた関係府省連絡会議

## ■大学等との連携企画の実施



搾乳可能な場所であることを表示する搾乳ステッカー

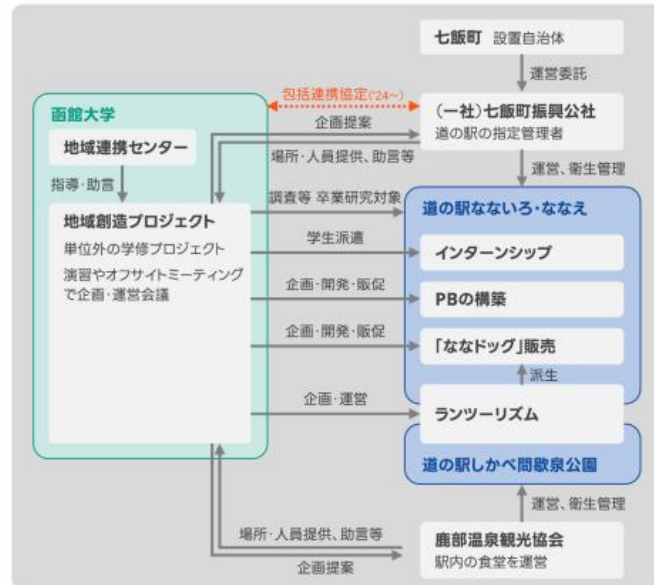
全国「道の駅」女性駅長会が、NPO法人ひまわりの会等と連携し、「搾乳室マーク」の普及に向けた活動を実施

## 函館大学 × 道の駅「なないろ・ななえ」「しかべ間歇泉公園」

### ● 取組の内容

取組1   2022年～継続中	取組2   2024～25年	取組3   2024年～継続中
道の駅をツーリズムステーションにスポーツツーリズムで道の駅と地域を活性化	国際高度人材育成の場(インターンシップ)	プライベートブランド(PB)の構築
<b>● ランツーリズムの企画・実施</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅「なないろ・ななえ」と道の駅「しかべ間歇泉公園」をつなぎ、ランツーリズムによる地域活性化を道の駅で実現する。</li> <li>プロモーションや初期投資、ルートの安全性などが課題。</li> </ul> <b>● 地域の特産を使った商品開発(販売中)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の利用後の栄養補給のため、地域の特産を使った商品開発を併せて実施。</li> <li>地元事業者との協働で軽食(ななえ：ホットドッグ「ななドッグ」、しかべ：弁当)を開発。</li> <li>食品系開発の標準的なプロセスである味や日持ちなど打ち合わせが多頻度で学生の予定調整が課題。連携センターや担当教員のサポートで時間的な抜けがないように心がけた。</li> </ul>	<b>● インターンシップの実施</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>高度国際人材の地方定着を目指しインターンシップを道の駅で実施した。</li> <li>これまで台湾の大学と連携があり、今回は台湾・長栄大学の国際人材と道の駅をつないだ。</li> <li>道の駅と国際人材の間でコミュニケーションの齟齬などが懸念された。これを軽減するためにバイディ制を用いた。(国際人材2名に日本人学生1名のセット)</li> <li>地元側では初めての取組ではあったが経験値は上がった。日本人学生が間に入ったので負担が軽減された。</li> </ul>	<b>● 道の駅オリジナルのPBを構築する道の駅プロジェクトへの参加</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特産であるリンゴを活用したアルコール飲料(シールド)と地元豆腐製造事業者による豆腐スプレッドを開発し、販売。また、リンゴと豆腐スプレッドを使用したシュークリームも販売予定。</li> <li>主にマーケティング等のプロモーションを担当する。</li> <li>学生の活動時間の確保とプロモーションの実践感覚の定着が課題。</li> <li>現在オフサイトの勉強会を実施しながら活動中。</li> </ul>

### ● 連携体制・関係者



商品開発(豆腐スプレッド)



テストマーケティングの様子



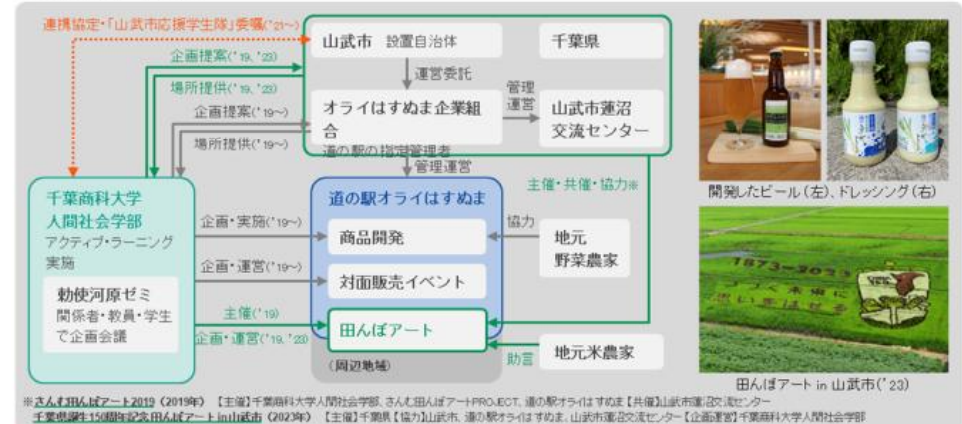
インターンシップの様子の様子

## 千葉商科大学 × 道の駅「オライはすぬま」「いちかわ」

### ● 取組の内容

取組1   オライはすぬま 2019年～いちかわ 2024年～	取組2   オライはすぬま 2019年～いちかわ 2024年～	取組3   いちかわ 2024年～	取組4   オライはすぬま 2019、2023年
商品開発を通じて社会課題を解決する	対面販売イベントの定期的な実施	常設販売ブースの設置	「田んぼアート in 山武市」の実施
<b>● ソーシャルビジネスの視点</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会課題を発見し、解決策をビジネスの視点から探ること。</li> <li>利益の最大化ではなく「社会課題の解決」を目的とし、新しい社会的価値を生み出す。</li> </ul> <b>● 地元企業(農家)と連携をした商品開発</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>オライはすぬま 地元の特産品である、海水ネギを使用した「ネギドレッシング」の開発。</li> <li>いちかわ 市川市産のピーズを使用した「ピーズドレッシング」の開発。</li> <li>地域の活性化や農業への理解。</li> </ul>	<b>● 開発した商品の販売</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生が開発したドレッシングなどを販売。</li> <li>お客様に直接、商品に込めた想いやストーリーを、学生自らの言葉で伝える場になっている。</li> </ul>	<b>● 開発した商品の販売</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>単発のイベント販売のみではなく、通年で常設ブースを設置しての販売。</li> <li>大学・付属高校の学生と生徒が連携をして、ブースを展開。</li> </ul>	<b>● 田んぼを通じた地域交流</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「世代や地域、国籍の垣根を越え、多くの人々が一つになって農を体験し、食やアートを通じて交流することで、多様性の理解や地域共生社会の実現を目指すこと」を目的として実施。</li> <li>5月に田植え、7月に鑑賞祭、9月に稲刈りを実施し、田んぼを通じた地域交流を図った。</li> </ul> <b>● 田んぼで結婚式</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>千葉県山武市にゆかりのある2組のカップルが「田んぼで結婚式」を挙げた。</li> </ul>

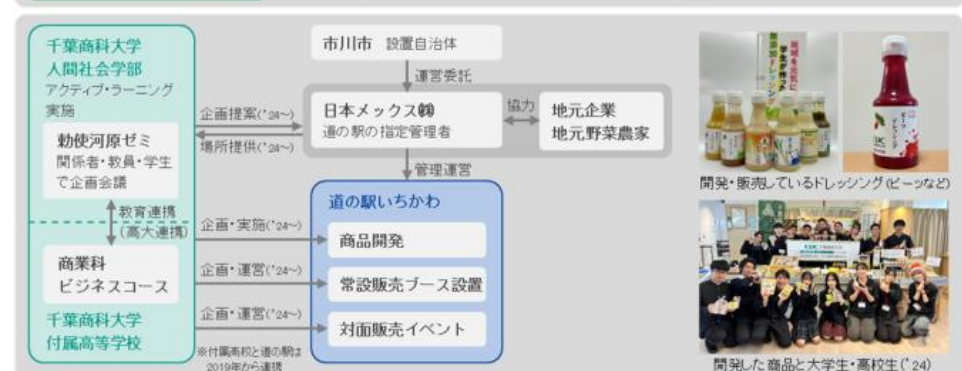
### ● 連携体制・関係者



開発したビール(左)、ドレッシング(右)



田んぼアート in 山武市('23)



開発・販売しているドレッシング(ピーズなど)



開発した商品と大学生・高校生('24)

## 『まちぐるみ』の取組促進

応援パッケージ対象道の駅の伴走支援を継続実施（～令和9年度）

取組内容やノウハウを全国に共有

- ・事例集の作成（支援終了後の令和10年度）
- ・全国シンポジウム等での現状報告(紹介)

関係省庁の支援メニューの情報共有

- ・本省から提供
- ・連絡会のコンフィデンシャルレポートでの周知

## 道の駅同士の連携強化

ブロック・県単位等での駅長会による広域連携の強化

- ・現場課題解決のノウハウ共有(駅長研修等)
- ・共同プロモーション、共同商品開発、周遊ルート形成

連絡会を通じた民間企業との協働

- ・民間知見の導入

防災道の駅ネットワークの強化

- ・情報伝達訓練の実施